

アルファ・ウイン 企業調査レポート

アイ・エス・ビー (9702 東証プライム)

発行日：2025年5月16日

アルファ・ウイン 調査部
<https://www.awincap.com/>

● 決算速報

◆ 第1四半期決算～業績好調、増収・営業増益。会社想定を上回った模様。

<2025/12期・第1四半期（2025年1～3月、以下、Q1=1～3月）の実績>

・今期Q1は、売上高9,712百万円（前年同期比=YOY:+13.8%）、営業利益1,131百万円（同+2.3%）、経常利益1,139百万円（同+0.7%）、当期純利益726百万円（同△4.5%）を計上した（図表1）。前期Q1に続き創業以来、四半期単位では売上高・営業利益・経常利益は過去最高値を更新した（P2-図表3、4）。（なお、本レポートでは、表記や計算過程において原則、単位未満を四捨五入するため、会社発表値、本文、図表において同一項目の数値や計算値に若干、差異が生じることがある。また、括弧内の△はマイナスを意味する。）

・好調な企業業績を背景にDX化やシステム更新など最終顧客のIT投資が活発で、ビジネスインダストリー、エンタープライズ、セキュリティシステム事業において、受注が堅調に増加した。成長に向けた積極的な先行投資により営業利益率は低下したが、増収効果がコストの増加を吸収し、営業利益・経常利益は増益を維持した。但し、法人税等が増加したため、当期利益は微減益となった。

【計画に対する進捗率】

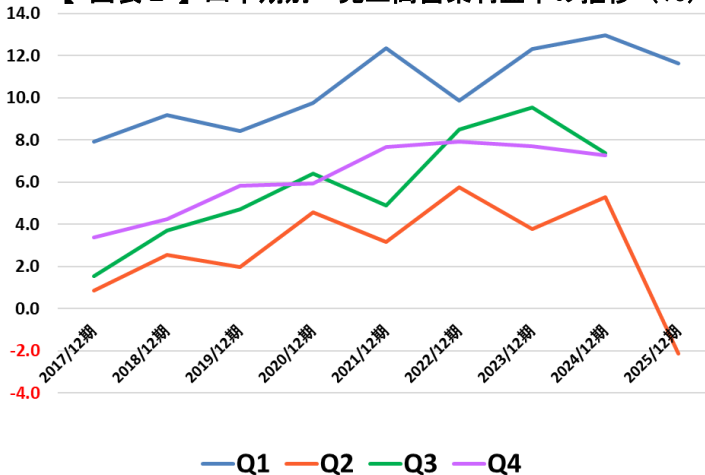
・同社が期初に発表（2025年2月14日）した通期計画に対するQ1の進捗率は、売上高では26.9%、営業利益では51.4%、当期利益では46.2%と高かった。過去3年間（2022/12期～2024/12期）の平均進捗率（Q1決算の通期実績に対する比率）は、それぞれ25.1%、35.7%、36.0%であり、今期Q1の利益進捗率は同期間の平均を大きく上回っている。

・Q1の会社による業績予想は非公表であるが、同社によれば社内計画を上回り、好調に推移した模様である。

【図表1】今期・第1四半期業績の実績

（単位：百万円、%）	2024/12期Q1 （2024年1～3月）	2025/12期Q1 （2025年1～3月）	YOY: 増減率	YOY: 増減額
売上高	8,531	9,712	13.8%	1,181
粗利	2,293	2,648	15.5%	355
粗利益率	26.9%	27.3%	0.4%	
販売管理費	1,188	1,517	27.7%	329
販管費率	13.9%	15.6%	1.7%	
営業利益	1,105	1,131	2.3%	26
営業利益率	13.0%	11.6%	-1.3%	
経常利益	1,132	1,139	0.7%	7
経常利益率	13.3%	11.7%	-1.6%	
当期利益	760	726	-4.5%	-34
当期利益率	8.9%	7.5%	-1.4%	

【図表2】四半期別・売上高営業利益率の推移（%）



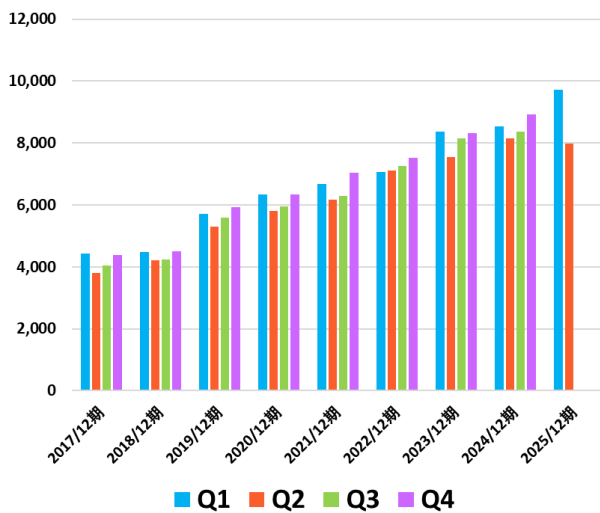
（出所）図表1～4：決算短信・決算説明資料に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。2025/12期Q2は、会社計画（上期計画-Q1実績）。

ショートレポート

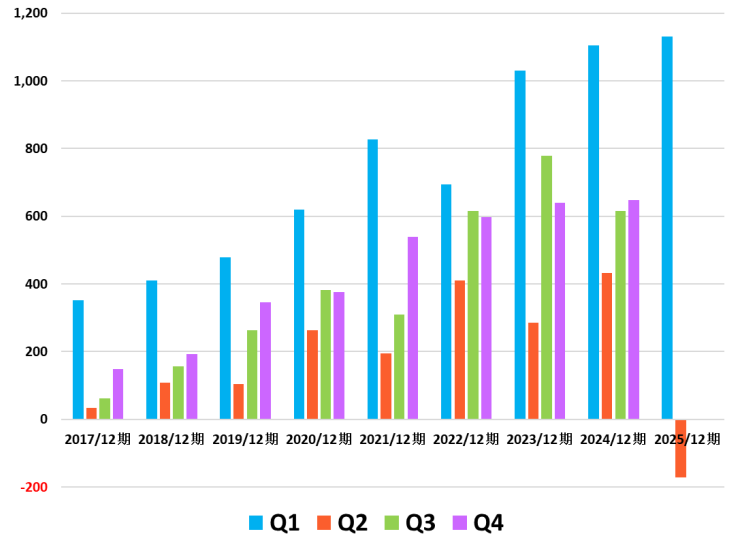
1/8

アルファ・ウイン企業調査レポート（以下、本レポート）は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社（以下、弊社）が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

【 図表 3 】 四半期別・売上高の推移 (百万円)



【 図表 4 】 四半期別・営業利益の推移 (百万円)



【利益の動向】

- ・株式会社 AMBC (以下、AMBC 社) の買収による寄与を含めた増収効果 (YOY : +1,181 百万円) と、粗利率が前期 Q1 の 26.9%から今期 Q1 には 27.3%へと 0.4%ポイント上昇したことにより、粗利額は 355 百万円 (同+15.5%) 増加した。
- ・一方、販管費は 329 百万円 (同+27.7%) と大きく増加し、販管費率は 13.9%から 15.6%に 1.7%ポイント上昇した。この結果、営業利益率は 13.0%から 11.6%に 1.4%ポイント低下し、営業利益は前期比 26 百万円 (同+2.3%) 増加した (P1-図表 2)。
- ・オフィス環境の改善や技術者の採用・育成などの人的投資を中心に成長投資を実施していることに加え (今期 Q1 : 約 3 億円)、調達コスト (外注費等) の上昇、広告宣伝などの営業活動の拡大、及び今期から新たに AMBC 社の「のれん」の償却 (Q1 : 31 百万円) が発生したことも加わり、コストが上昇し利益率の低下に繋がった。
- ・Q1 の営業外損益は、前期の 27 百万円の黒字から今期には 9 百万円の黒字へと 18 百万円縮小したが、前期に受取保証金を営業外収益に計上したことによる反動である。

<セグメント(連結)>

【決算短信での報告セグメント (Q1 の売上高とセグメント利益)】

- ・報告セグメントは、情報サービス、セキュリティシステムの 2 事業で開示されている (P3-図表 5)。
- ・今期 Q1 の売上高構成比 (外部顧客向け、以下同様) は、情報サービスが 80.2% (前年同期 83.4%)、セキュリティシステムが 19.8% (同 16.6%)、また、調整前のセグメント利益の構成比は、順に 61.6%、38.4% (同 70.0%、30.0%) と、情報サービスが売上高・利益の過半を占める。
- ・情報サービス事業の売上高は 7,793 百万円 (YOY : +680 百万円、+9.6%)、セグメント利益は 692 百万円 (同△75 百万円、△9.7%) と増収減益となった。ビジネスインダストリー、エンタープライズの受注が好調で増収となった (詳細は P4、5)。
- ・しかし、コストの上昇により、売上高利益率 (=セグメント利益÷外部顧客への売上高、以下同様) が前期の 10.8%から今期には 8.9%へと低下し、減益となった。
- ・一方、リカーリングビジネスの課金収入が順調に増加したことに加え、新デバイスによる物件のリニューアル需要も堅調で、セキュリティシステムの売上高は 1,919 百万円 (YOY : +501 百万円、

+35.3%)、セグメント利益は432百万円(同+103百万円、+31.3%)と増収増益となった。

・外注施工費、広告宣伝費、資材価格の上昇により、Q1の売上高利益率は前期の23.2%から今期には22.5%へと0.7%ポイント低下したが、増収により増益を確保した。セキュリティシステムには、収益性の高いリカーリング製品が含まれており、同セグメントの利益率は高水準を維持している。

【図表5】報告セグメント別・四半期別業績の推移

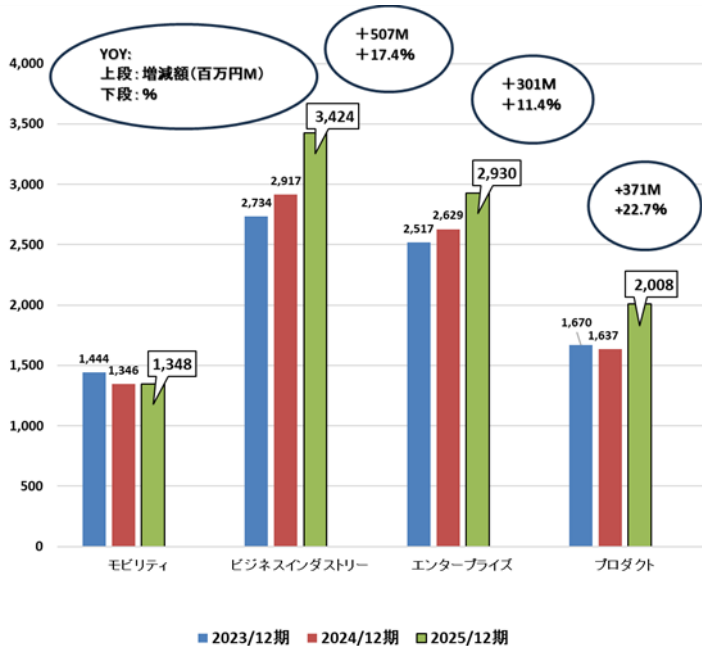
年度	情報サービス・四半期別売上高:百万円				情報サービス・四半期別セグメント利益:百万円				情報サービス・四半期別セグメント利益率:%			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
単位未満:四捨五入												
2017/12期	3,426	3,130	3,390	3,459	194	37	92	143	5.6	1.2	2.7	4.1
2018/12期	3,500	3,411	3,535	3,686	261	110	169	171	7.5	3.2	4.8	4.6
2019/12期	4,688	4,446	4,742	5,042	312	94	268	347	6.7	2.1	5.6	6.9
2020/12期	5,103	4,891	5,141	5,260	451	218	368	287	8.8	4.4	7.1	5.4
2021/12期	5,330	5,251	5,459	5,802	594	195	295	421	11.1	3.7	5.4	7.3
2022/12期	6,044	6,046	6,328	6,472	570	289	485	492	9.4	4.8	7.7	7.6
2023/12期	6,802	6,725	6,870	7,059	626	310	522	545	9.2	4.6	7.6	7.7
2024/12期	7,113	6,930	7,287	7,662	787	285	550	486	10.8	4.1	7.5	6.3
2025/12期	7,793				692				8.9			
前期比(金額・幅)	880				-75				-1.9			
前期増減率(%)	9.6%				-9.7%							
年度	セキュリティシステム・四半期別売上高				セキュリティシステム・四半期別セグメント利益				セキュリティシステム・四半期別セグメント利益率			
単位:情報サービスと同じ	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
2017/12期	1,014	667	652	929	159	-5	-29	6	15.7	-0.7	-4.5	0.7
2018/12期	981	797	703	828	149	-9	-17	19	15.2	-1.1	-2.4	2.2
2019/12期	1,010	848	856	888	163	2	-6	-2	16.2	0.3	-0.7	-0.2
2020/12期	1,233	904	820	1,081	165	42	20	92	13.4	4.6	2.4	8.5
2021/12期	1,356	909	833	1,236	233	-4	8	118	17.2	-0.4	0.9	9.6
2022/12期	1,011	1,072	924	1,056	124	118	131	103	12.3	11.0	14.1	9.7
2023/12期	1,565	827	1,285	1,255	371	-42	247	86	23.7	-5.1	19.2	6.9
2024/12期	1,418	1,212	1,079	1,254	329	140	55	153	23.2	11.5	5.1	12.2
2025/12期	1,919				432				22.5			
前期比(金額・幅)	501				103				-0.7			
前期増減率(%)	35.3%				31.3%							

(出所) 決算短信、決算説明会資料に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。

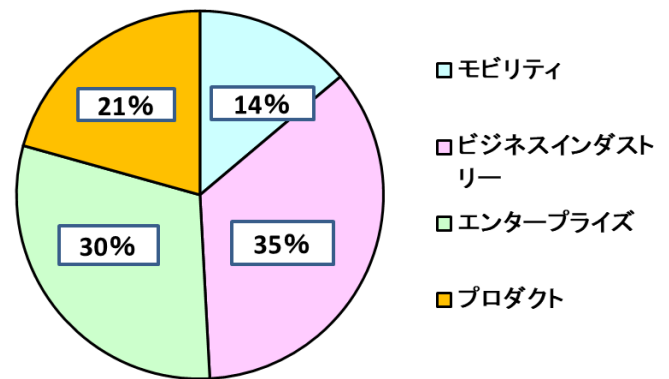
【事業領域別売上高】

・事業領域は、モビリティ、ビジネスインダストリー、エンタープライズ、プロダクトの4つに区分されており、各領域の売上高は以下の通りである(図表6、7、なお事業領域別利益は非公表)。

【図表6】事業領域別・今第1四半期売上高の推移



【図表7】事業領域別・今期第1四半期売上高の構成比



(出所) 図表6~7: 決算短信、決算説明会資料に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。

(備考) 図表6の円内の数字は、前年同期比(M:百万円)

- ・モビリティは、前期比 2 百万円 ($\Delta 0.1\%$) の微減収となり (全体の増収額に対する寄与率 $+0.2\%$ 、以下同様)、売上高 1,348 百万円を計上した (今期 Q1 の売上高構成比 14%、以下同様)。携帯端末・5G 関連が縮小したため減収となったが、車載系が堅調に推移しカバーした。
- ・最大の事業領域であるビジネスインダストリーは (売上高構成比 35%)、旺盛な DX 需要を背景に業務システム、特にセキュリティや医療、教育分野が好調に推移した。組込み系でも IoT 関連の受注が堅調で、売上高 3,424 百万円を計上し、前期比 507 百万円 ($+17.4\%$) の増収となった (増収寄与率 $+42.9\%$)。売上高・利益の両面で、Q1 業績の牽引役となったと推測される。
- ・次いで売上高規模が大きいエンタープライズ (売上高構成比 30%) も、金融 (銀行・保険) が拡大し、自治体案件の伸長に加え IT インフラ構築も安定的に推移したため、売上高は 2,930 百万円と前期比 301 百万円 ($+11.4\%$) の増収となった (増収寄与率 $+25.5\%$)。
- ・プロダクトの売上高は、前期比 371 百万円 ($+22.7\%$) の増収となり (増収寄与率 $+31\%$) 2,008 百万円を計上した (売上高構成比 21%)。情報サービス事業 MDM IoT は、前期の機器販売や IoT 案件の反動により、売上高は半減し 89 百万円となった (YOY: $\Delta 130$ 百万円、 $\Delta 59.4\%$)。一方、セキュリティシステム関連事業は、案件の前倒しによる売上高の計上や、物件のリニューアル需要に支えられたほか、リカーリングビジネスの課金収入も堅調で 1,919 百万円となった。

<財務状況>

- ・コアビジネスはキャッシュカウ化している。フリーキャッシュフローは、直近 13 期間も連続で黒字を維持しており、今期 Q1 末 (2025 年 3 月末、以下は同時点の数値) では、約 85 億円の現預金 (平均月商の約 2.8 ヶ月分) を保有している。なお、一時期よりも現預金残高が減少しているが、AMBC 社の買収や、新オフィス (品川) への移転・統合に伴う差入保証金等に充当している。
- ・また、借入金残高は 1.2 億円 (増減なし) と、実質的に無借金経営を継続している。
- ・流動比率は 266.0%、自己資本比率は 66.7%と、財務比率は十分に高い水準にある。
- ・のれんは、AMBC 社の買収により、前期末で 625 百万円まで増加したが、Q1 に 31 百万円を償却し (5 年間の均等償却、年間 125 百万円)、残高は 594 百万円となった。のれん残高は、純資産 13,589 百万円の範囲内であり (4.4%相当と僅少)、良好な財務体質を維持している。

◆ 今期、及び中期の業績見通し～今期業績予想を据え置き～

<今期の通期予想>

【業績予想を据え置き】

- ・同社は、Q1 の実績は計画を上回ったとしているが、期初に発表した今期の上期、及び通期の業績予想を据え置いた。受注は引き続き好調であるが、移転費用・調達コスト・販管費の上昇などのリスクのほか、マクロ環境の不透明要素を考慮したものと推測される。
- ・通期の業績予想では、売上高を 36,100 百万円 (YOY: $+2,146$ 百万円、 $+6.3\%$ 、以下同様)、営業利益を 2,200 百万円 ($\Delta 400$ 百万円、 $\Delta 21.4\%$)、当期利益を 1,570 百万円 ($\Delta 462$ 百万円、 $\Delta 22.8\%$) と増収ながら、成長投資にともなうコストの増加により減益を予想している (P5-図表 8-右: 桃色)。
- ・なお、年度別では今期が成長投資のピークとなる (2024/12 期から 2026/12 期の順に、9.0 億円⇒16.5 億円 (YOY: $+7.5$ 億円) ⇒12.3 億円 (同 $\Delta 4.2$ 億円))。

・買収した AMBC 社のフル寄与により、売上高は過去最高を更新することが確実視される。因みに、営業利益、経常利益は歴代 4 位、当期利益は前期に次ぎ 2 位となる見込みである。

【上期予想】

・同社は、今上期 (2025 年 1~6 月) の業績を、システム需要が堅調で売上高は 17,700 百万円 (YOY: +6.3%、以下同様) と増収を予想する一方で、先行投資の増加から営業利益は 950 百万円 (同△38.2%) (上期の営業利益率は、前期実績⇒今期予想の順に 9.7%⇒5.4%)、当期利益も 670 百万円 (同△40.2%) と大幅な減益を見込んでいる (P5-図表 8-中央: 橙色)。

・なお、上期の会社計画から Q1 の実績を差し引いた Q2 (4~6 月) の計画は、売上高が 7,988 百万円 (YOY: △154 百万円、△1.9%)、営業利益が△181 百万円 (同△613 百万円、前期は 432 百万円の黒字)、当期利益が△56 百万円 (同△416 百万円、前期は 360 百万円の黒字) と、減収並びに減益・赤字を予想している (P5-図表 8-左: 青色)。

・営業利益率は今期 Q1 の 11.6%、前期 Q2 の 5.3%から、今期 Q2 には△2.3%へと大きく低下する想定である。成長投資による一時的な費用が急増するためと推測される。

・今期 Q2 の業績計画は、四半期単位での過去の業績の変動性 (年間における構成比や利益率)、足元の受注環境や体制、投資状況を考慮すると、特殊要因によるものであり、Q3 以降は増収・黒字基調に転じると推測される。

【図表 8】 今期の第 2 四半期・上期・下期業績の会社予想 (前年同期比)

(百万円)	2024/12期Q2 (4~6月)実績	2025/12期Q2 (4~6月)会社計画	対前年同期比 増減金額	対前年同期比 増減率	2024/12期 前上期・実績	2025/12期 今上期・計画	今上期・計画 対前年同期比	2024/12期 前下期・実績	2025/12期 今下期・計画	対前年同期比	今下期・計画 今上期・計画	2024/12期 前通期・実績	2025/12期 今通期・会社予想	対前年同期比
売上高	8,142	7,988	-154	-1.9%	16,673	17,700	6.2%	17,281	18,400	6.5%	700	33,954	36,100	6.3%
粗利	1,887				4,180			4,061				8,241		
粗利益率	23.2%				26.3%			23.5%				24.3%		
販売管理費	1,455				2,643			2,798				5,441		
販管費率	17.9%				16.6%			16.2%				16.0%		
営業利益	432	-181	-613		1,538	950	-38.2%	1,262	1,250	-1.0%	300	2,800	2,200	-21.4%
営業利益率	5.3%	-2.3%	-7.6%		9.7%	5.4%	-4.3%	7.3%	6.8%	-0.5%	1.4%	8.2%	6.1%	-2.2%
経常利益	437	-159	-596		1,569	980	-37.6%	1,323	1,320	-0.2%	340	2,892	2,300	-20.5%
経常利益率	5.4%	-2.0%	-7.4%		9.9%	6.9%	-2.9%	7.7%	7.2%	-0.5%	0.2%	8.5%	6.4%	-1.1%
当期利益	360	-56	-416		1,120	670	-40.2%	912	900	-1.3%	230	2,032	1,570	-22.8%
当期利益率	4.4%	-0.7%	-5.1%		7.0%	3.8%	-3.3%	5.3%	4.9%	-0.4%	1.1%	6.0%	4.3%	-1.7%

(出所) 決算短信、決算説明会資料に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。

【同社による下期予想】

・下期の業績予想 (= 通期計画 - 上期計画) は、売上高 18,400 百万円 (YOY: +6.5%、以下同様)、営業利益 1,250 百万円 (同△1.0%)、当期利益 900 百万円 (同△1.3%) となる (P5-図表 8-左: 黄色)。営業利益率は前上期 9.7%、前下期の 7.3%から、今下期には 6.8%に低下するが、今上期予想の 5.4%からは上昇する計画である。

・前下期との比較では増収・微減益になるが、今上期に一過性の費用がピークアウトすることや、増員した人員の本格的な稼働・貢献により、今下期は上期比には損益が大きく改善する見込みである (P5-図表 8-左: 緑色)。・なお、報告セグメント別、事業領域別の通期売上高予想は非開示である。

【当調査部による通期予想】

・前回の調査 (2025 年 3 月 28 日) では、会社の通期の期初予想は保守的であり、売上高を会社計画と同額、営業利益を 2,300 百万円 (会社計画比+100 百万円)、当期利益を 1,630 百万円 (同+60 百万円) と予想した。Q1 の増収率は想定よりも高く、売上高・利益とも高い進捗率を示しており、かつ足元の受注環境は引き続き良好である。

・業績のダウンサイドリスクは小さく、コストコントロール次第では利益の増額修正余地はある。しかし、人的キャパシティの制約、マクロ環境の悪化、インフレによるコストの増加等のリスクを考慮し、前回の予想を据え置いた (P7-図表 A)。

・また、当調査部では配当金を 55.0 円 (前期比+1.0 円の増配、会社計画比+1.0 円、前回の当部予想と同額) と予想している (同社の目標である配当性向 30%以上に対しては、約 38.6%を想定。会社計画は 39.3%)。

<中期の業績予想>

・同社グループは、中期経営計画 2026 (2024/12 期~2026/12 期) を掲げているが、前期の本決算発表時に最終年度 (2026/12 期) の業績目標を引き上げた。売上高 375 億円⇒380 億円 (修正：+5 億円、+1.3%、以下同様)、営業利益 27 億円⇒30 億円 (+3 億円、+11.1%)、営業利益率 7.2%⇒7.9% (+0.7%ポイント) に上方修正した。また、3ヶ年累計の成長投資額も、37.5 億円⇒37.8 億円に僅かに増額した。既に成長投資の成果が表れつつあることと、同社が将来の業績に対し自信を深めたことが背景にあると推測される。

・当調査部では過去の業績水準 (2000/12 期以降の過去最高の営業利益：2024/12 期 2,800 百万円、同利益率：2023/12 期 8.4%)、並びに現在の経営環境、成長投資の今後の効果を考慮すると、同社の売上高・利益の目標は保守的であり、達成の確度は高いと判断している。

・なお、当調査部では、増収・増益・増配基調を予想しており、来期 (2026/12 期)・来々期の予想 (2027/12 期) についても、前回予想を据え置いた (P7-図表 A)。

・現行の中計期間内は成長投資を継続して行うことから、過去 8 年間と比較すると業績のモメンタムは低下するが、成長投資が一巡する次期中計期間 (2027/12 期以降) には、業績の本格的な回復が期待される。

・当面、人的なキャパシティの制約が懸念されるが、人材投資を積極化しボトルネックの解消に努めているほか、好調な受注環境を踏まえ請負単価が堅調に推移すると思われること、顧客による DX を中心とするシステム開発需要は旺盛で業務量が増加傾向にあると考えられること、有望分野の拡大や顧客開拓、プライム案件へのシフト、高付加価値のソリューション事業への展開、リカーリング事業の成長 (SDM、ALLIGATE、建設現場用カードリーダー)、豊富な資金を活用した M&A による成長の加速が期待される。

◆ 株価水準～ポジティブサプライズ：今期業績の上方修正と増配を好感～

<パフォーマンス>

・同社の株価は業績の伸長を反映し、直近の約 8 年間では TOPIX を大きくアウトパフォームしている (P8-図表 C)。

・一時期、業績の鈍化懸念等から株価は相対的に軟調に推移し、TOPIX や日経平均株価をアンダーパフォームした。しかし、前期業績の上方修正・増配 (過去最高の業績の達成)、中期業績計画の上方修正、市場センチメントの回復を受け株価は反転しつつあり、相対的にも直近 1 年間では両インデックスをややアウトパフォームしている。

<バリュエーションと今後の株価の見通し>

・ 同社が所属する東証プライム市場の全銘柄平均（予想 PER：15.33 倍、実績 PBR：1.32 倍、単純平均予想配当利回り：2.65%、いずれも 2025 年 5 月 9 日終値基準）とのバリュエーション比較では、同社の PER（今期・会社予想基準 10.1 倍、今期・当調査部予想基準 9.8 倍）PBR 1.1 倍（今期末・当調査部予想基準）はともに低く、かつ配当利回り（今期・会社計画 3.9%、今期・当調査部予想 4.0%）は高い（P8-図表 B）。

・ 加えて、PSR（0.44 倍＝時価総額÷今期の会社予想売上高）、EV/EBITDA（2.8 倍：今期・当調査部予想基準）も低位で、主要なバリュエーションには依然として割安感がある。

・ 今後、業績の上方修正や、株主還元の強化策（増配・株式分割・自社株買い・株主優待制度の新設）、及び AMBC 社に続き、豊富な手元資金を活用しシナジー効果が見込める提携・買収などのキャタリストの発表や、中長期の利益成長性のレジビリティが高まれば、株価には上昇余地があると当調査部では考えている。

・ 関税や為替、金利の変動による直接的な影響を受けにくく、低バリュエーションでデフェンシブ性がある内需成長株として、今後も同社に注目していきたい。

以上

【9702 アイ・エス・ビー 業種：情報・通信】 図表 A												
決算期		売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	純利益	前期比	EPS	BPS	配当金
		(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(円)	(円)	(円)
2020/12	A	24,434	8.5	1,644	37.7	1,712	39.5	994	57.0	94.10	772.12	31.50
2021/12	A	26,176	7.1	1,869	13.7	1,940	13.3	1,110	11.6	97.77	841.13	30.00
2022/12	A	28,952	10.6	2,319	24.0	2,401	23.7	1,423	28.3	125.12	938.03	40.00
2023/12	A	32,388	11.9	2,734	17.9	2,810	17.0	1,472	3.4	129.07	1,035.37	42.00
2024/12	A	33,954	4.8	2,800	2.4	2,892	2.9	2,032	38.0	177.80	1,180.73	54.00
2025/12	CE	36,100	6.3	2,200	-21.4	2,300	-20.5	1,570	-22.8	137.30		54.00
2025/12	E	36,100	6.3	2,300	-17.9	2,400	-17.0	1,630	-19.8	142.52	1,269.21	55.00
2026/12	CE 中計	38,000	5.3	3,000	36.4	—	—	—	—	—	—	—
2026/12	CE 旧中計	37,500	—	2,700	—	—	—	—	—	—	—	—
2026/12	E	38,000	5.3	3,000	30.4	3,100	29.2	1,860	14.1	162.62	1,376.83	58.00
2027/12	E	40,000	5.3	3,200	6.7	3,300	6.5	2,000	7.5	174.87	1,493.70	61.00
2023/12	Q1 A	8,366	18.6	1,030	48.0	1,042	49.5	579	30.3	50.93	949.80	0.00
2024/12	Q1 A	8,531	2.0	1,105	7.3	1,132	8.6	760	31.1	66.59	1,070.25	0.00
2025/12	Q1 A	9,712	13.8	1,131	2.3	1,139	0.7	726	-4.5	63.49	1,188.11	0.00
2023/12	Q2 A	7,553	6.1	285	-30.7	298	-31.7	183	-26.5	16.01	1,037.04	0.00
2024/12	Q2 A	8,142	7.8	432	51.6	437	46.6	360	96.7	31.45	1,104.93	0.00
2025/12	Q2 CE	7,988	-1.9	-181	赤字	-159	赤字	-56	赤字	-4.89	-	0.00
2023/12	上期 A	15,919	12.3	1,315	18.9	1,340	18.3	762	9.9	66.94	1,037.04	0.00
2024/12	上期 A	16,673	4.7	1,537	16.9	1,569	17.1	1,120	46.8	98.04	1,104.93	0.00
2025/12	上期 CE	17,700	6.2	950	-38.2	980	-37.6	670	-40.2	58.60	-	0.00
2023/12	下期 A	16,469	11.4	1,419	17.0	1,470	15.9	710	-2.6	62.13	1,035.37	42.00
2024/12	下期 A	17,281	4.9	1,263	-11.0	1,323	-10.0	912	28.5	79.76	1,180.73	54.00
2025/12	下期 CE	18,400	6.5	1,250	-1.0	1,320	-0.2	900	-1.3	78.70	-	54.00

(出所) アルファ・ウイン調査部が作成。

(備考) A:実績、CE:会社予想、E:アルファ・ウイン調査部予想。旧:前回(期初)予想、新:今回(修正)予想。

Q1:1~3月決算、Q2:4~6月決算、H1=上期:1~6月決算、H2=下期:7~12月決算。

アルファ・ウイン 企業調査レポート

アイ・エス・ビー (9702 東証プライム)

発行日：2025/5/16

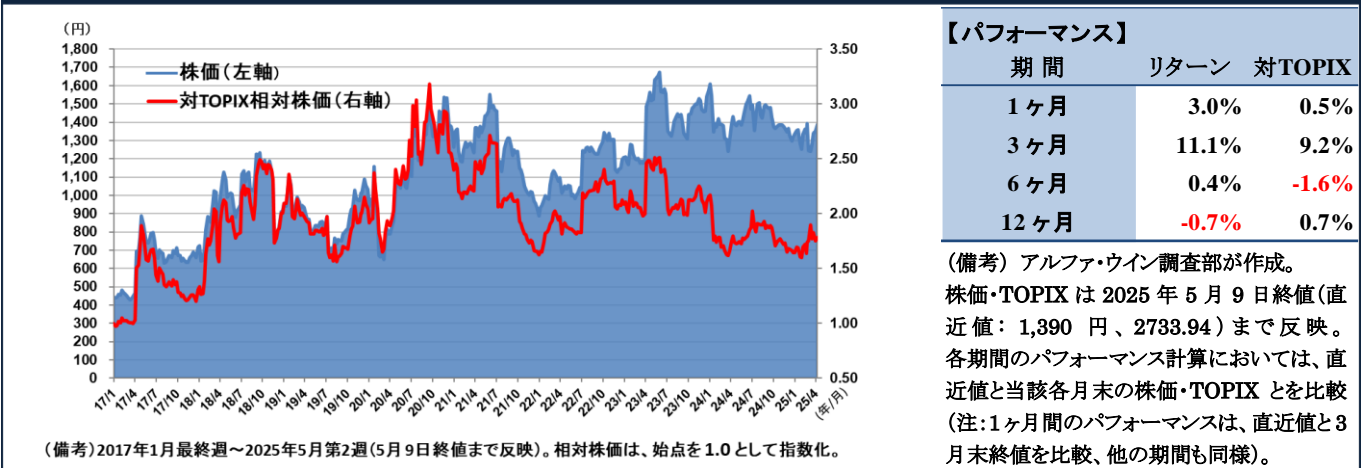
【 株価・バリュエーション指標：9702 アイ・エス・ビー 】 図表B

項目	2025/5/9	項目	PER (倍)	PBR (倍)	配当利回り	配当性向
株 価 (円)	1,390	前期実績	7.8	1.2	3.9%	30.4%
発行済株式数 (千株)	11,438	今期予想	9.8	1.1	4.0%	38.6%
時価総額 (百万円)	15,898	来期予想	8.5	1.0	4.2%	35.7%
潜在株式数 (千株)	0	来々期予想	7.9	0.9	4.4%	34.9%
今期Q1末・自己資本比率	66.7%	前期純資産配当率(DOE)		4.9%	前期ROE	16.1%

(出所) アルファ・ウイン調査部が作成。

(備考) 予想:アルファ・ウイン調査部による予想

【 株価チャート(週末値) 9702 アイ・エス・ビー 】 図表C



(出所) アルファ・ウイン調査部が作成。

ディスクレーマー

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。(更新された)最新のレポートは、弊社のホームページ(<https://www.awincap.com/>)にてご覧ください。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【info@awincap.com】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務を負いません。SV2025-0516-0900

ショートレポート

8/8

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。